

家計消費にともなうCO₂排出量の分析

○杉原利治、大藪千穂

(岐阜大)

【目的】 家計消費支出データを用いて、世帯年間 CO₂ 排出量を算出し、CO₂ 排出量に対する費目の特徴、年次推移、年齢、収入階級別特徴などを明らかにする。

【方法】 「環境分析用産業連関表」と「家計調査年表」(1980-1998)を用い、10大費目毎に、1世帯の年間CO₂排出量を求め、それらを集計、分析した。

【結果】 1998年度の場合、1世帯平均の年間総排出量は15130 kgである。消費支出に占める割合は、食料、その他の消費支出、交通・通信、教養娯楽の順であるが、CO₂排出量は、光熱・水道、交通・通信、食料、教養娯楽の順であり、直接エネルギーとして消費される費目の割合が高い。CO₂総排出量は、1980年から1998年の間に、2000 kg (1.2倍)増加している。特に、交通・通信、光熱・水道、教養娯楽の増加が著しい。消費金額とCO₂排出量との関係から、10大費目を分類すると、支出金額の増加に対して、排出量も増加するグループ(交通・通信、光熱・水道、教養娯楽)、排出量は横這いのグループ(教育、住居、保健医療)、排出量は減少のグループ(その他の消費支出)、および、支出金額は横這い、排出量は減少のグループ(家具・家事用品、被服及び履物、食料)に分けられた。CO₂総排出量は、収入の上昇につれ、多くなる。年齢階級別に見た場合、45-49才の階層で最大であり、それより外れると次第に低下する。